Scf 4年学年企画委員会

委員会概要

目的：4年生としての出し物の企画

出し物：小学校を舞台としたお化け屋敷

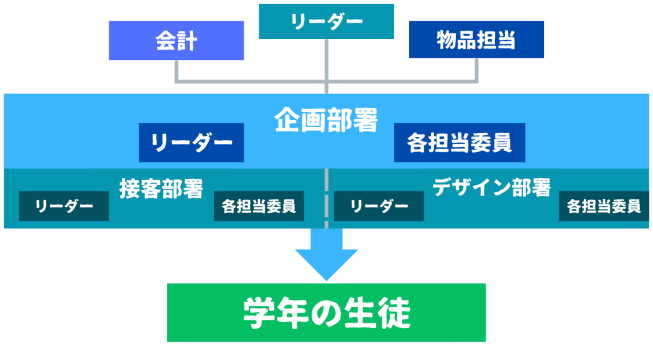
大切にしたこと：作業分担・情報共有

→工夫：個人レベルでの作業の割り振り

結果：ベストサマー賞２位

ベストサマー賞とは：Scf実行委員会から来場者が最も”夏らしい”と感じた企画に送られる賞。

委員会での役割



協同スキル実例

①対話による合意形成

部署を超えたミーティング

→委員会決定事項の共有

Eg:小道具作成段階において、企画のイメージとすり合わせ、より良い小道具を作成する。

報告等の状況共有

→効率的な人材配置

Eg:それぞれの部署に定期的に進捗状況を伺い、序盤に準備が終了するような人には別部署で引き続き活動してもらう。

より円滑な活動

②他者への傾聴

目安箱の設置

→委員会外の意見の傾聴

Eg: 企画部署のアイデア出しに限界…

→目安箱を設置し、アイデアを公募

→鏡を用いたトリックなどを取り入れる。

チームごとの進捗確認

→状況・必要物資の把握

Eg: 終盤には残された予算で小道具材料を購入する必要がある

→なるべく早く現状を把握し、調整する。

生徒との協力体制

③他者との交渉

学年生徒からの物品借用

→予算の多くを材料へ

Eg: 学年でFormsを用いて募集し、具体的な活用方法を提示し合意を図る。

材料の共有・代用の提案

→無駄な出費・消費を抑える

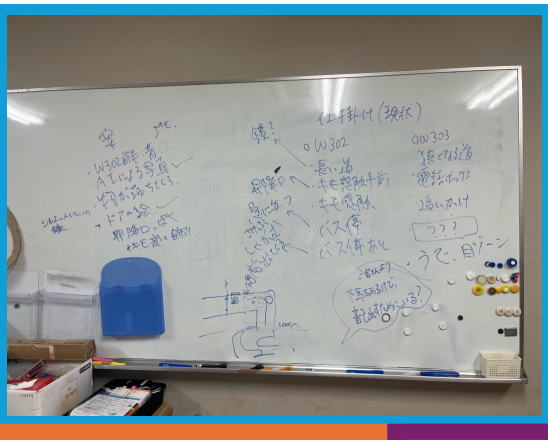
Eg:

・黒ビニールがよく使われていた材料

→床＞壁＞教室間通路と優先順位を策定

・窓への段ボールを暗幕へ代用

費用・資源の節約



課題点

業務の効率化…委員会活動には限界がある→他者と協働し仕事を分散、委員会だからできる仕事を優先して実施

重要情報の誤植・学年共有の遅延…部署間・委員会間のコミュニケーションに齟齬

→正確に遅延なしに伝達できるよう、協力的にコミュニケーションをとる。

委員会内での情報共有の偏り…委員会内の情報格差が発生

→情報の伝達は個人ではなく集団レベルで互いに確認し合う。

相互補助・協同